

## 上柳さんと日本スポーツ仲裁機構

上柳さんの突然のご逝去の知らせには大変驚き、悲しく、残念に思いました。私は、日本スポーツ仲裁機構(JSAA)の設立とその後の運営について、上柳さんに大変にお世話になりました。同機構の設立当時、日本にスポーツ仲裁の実際のこと分かる人はほとんどいませんでした。そのような中であって、水泳の千葉すず選手がシドニー・オリンピック代表選手選考をめぐる日本水泳連盟をローザンヌに本部を置くスポーツ仲裁裁判所(CAS)に提訴した2000年の事件において、水泳連盟側の代理人を務められた上柳さんの知見は大変貴重なものでした。水泳連盟はCAS仲裁の応諾義務はなかったため、おそらく受けて立たないという意見も内部ではあったと推測されます。にもかかわらず、最終的には応訴し、かつ、手続的には水泳連盟に問題はあったとされたものの、千葉選手落選との決定は維持され、本案では水泳連盟が勝訴しました。ご本人から伺ったわけではありませんが、おそらく上柳さんのアドバイスが功を奏したのだらうと思います。そして、この水泳連盟の勝訴は、その後、2003年に設立されることになるJSAAにとって、大きな追い風となりました。すなわち、スポーツ団体の決定をめぐるトラブルについて、第三者である仲裁人の評価を受けることによって、すっきり解決されたという経験は、スポーツ界に仲裁が受け入れられる環境整備をすることになったということです。スポーツ界には縁がなかったにも拘わらず機構長を務めることになった私は、上柳さんを頼り、JSAA設立時からかなりの期間、仲裁担当の執行理事として大変助けられました。上記のような追い風の中でスタートしたJSAAではありましたが、スポーツ界の方々から法律家を好意的に受け容れて下さるはずがありません。反対に法律家の中には何かスポーツ界の役に立ちたいという方が少なからずいらっしゃいます。そういう「片思い」を背景とする様々な行き違いが生ずる中、上柳さんの安定感ある仕事ぶりにどれだけJSAAが助けられたか分かりません。上柳さんの社会貢献はスポーツ法に止まるものではありませんが、彼という先駆者の存在によって、スポーツ法の後継者が育ち、スポーツ界のガバナンス強化に結び付いているのだと思います。ありがとうございました。ご冥福をお祈りします。

道垣内正人(どうがうち・まさと)(早稲田大学教授・前日本スポーツ仲裁機構機構長)

2023年2月21日

[上柳敏郎弁護士追悼文集収録]